平成２６年度第３回逗子市立図書館協議会会議録

日　時　　平成２７年２月１９日（木）

１３：００～

場　所　　市民交流センター　第３会議室

１．開会

２．あいさつ

３．議事

（１）平成26年度図書館の利用状況について

（２）平成27年度事業計画案及び予算案について

（３）公民館図書室の動向について

（４）その他

出席委員

高鷲忠美会長　　若林ふみ子委員　　辻伸枝委員　　汐﨑順子委員

事務局

小川図書館長　　鈴木館長補佐　　利根川専任主査　　椙山主任

傍聴　１名

【鈴木館長補佐】　本日は平成26年度第３回図書館協議会に御出席いただきまして、ありがとうございます。ただいまより協議会を開催させていただきます。

本日の会議録を作成するに当たりまして、発言の録音及び傍聴の許可をあらかじめ御了承ください。傍聴の皆様にお願いいたします。傍聴に際しては、注意事項をお守りくださるようお願いいたします。秘密会にすべき事項と思われる案件が出されたときには退場いただく場合がありますので、御了承ください。

本日は大河内委員が欠席ですが、図書館協議会委員４名が出席されておりますので、図書館協議会運営規則第３条第２項の規定による会議は成立していることを御報告いたします。

これより図書館協議会運営規則第３条により、会長が議長となりまして議事に入ります。では会長、よろしくお願いいたします。

【高鷲会長】　皆さん、こんにちは。きのうまでは寒かったですけれども、きょうは暖かくて助かっています。私も先々週あたりから春が近いかなと思って、というのは花粉症がひどくなってきました。医者に行って注射をし、薬をもらって何とか抑えていますが、もう30年近くなるのかな、花粉症。本当に嫌ですね。近くにいる人の鼻がずるずるして、目を赤くしているから、風邪を引いたかなと思って医者に行くと、立派な花粉症ですよと。みんな菌を持っているわけですけれども、症状として出るかどうかわからないということですよね。現在は症状のない方も、いつなるかもわからないということだそうです。

それでは、議事に入りたいと思います。議題１として、事務局から平成26年度図書館の事業実施状況と利用状況について、報告をお願いいたします。

【利根川専任主査】　それでは、まず本年度の利用状況について説明をさせていただきます。資料１－１と１－２をごらんいただきたいと思います。本年度も含めまして３年分の貸出冊数、貸出者数、予約冊数等の数字をここに表示しています。年間トータルの貸出冊数は、３月末で、公民館図書室の数字も合わせますと53万冊ぐらいになると見込んでおります。私どもの図書館では、平成20年度に61万冊という貸出冊数を記録いたしまして、そこがピークで、それ以降、年々貸出冊数が減少する傾向が続いています。ピーク時が61万冊で本年度末が53万冊としますと、約15％程度年間の貸出冊数とすれば減少することとなります。

その理由といたしましては、電子書籍やスマートフォンの普及ということが大きな要因としてあると思われます。それから、大ベストセラーと呼ばれるものがここのところあまりないということで、図書館に本を借りに来る回数が少なくなってきているという印象を持っておりま

す。資料１－２で、児童書の数字を示しておりますけれども、児童書も全体として貸出冊数が減少する傾向が見てとれます。私どもの図書館は、本年４月17日がちょうど開館して丸10年という節目を迎えるわけですけれども、延べの入館者数は平成22年に300万人、平成25年に500万人を達成しまして、本年の10月には600万人に達する見込みです。入館者数とすれば相当多いかと思いますけれど、貸出冊数という点では右肩下がりの傾向が見えてきています。

次に、資料２をごらんいただきたいのですが、本年度の事業実施状況について示しております。１面で載せた分は前回の協議会のときに細かく御説明しましたので省略をさせていただきますが、一番上に出ている定例のおはなし会については、ここのところ参加者が増加の傾向にあります。特に本日も午前中、小さい子ども向けのおはなし会がありましたが、大入り満員でございました。親子で50名近くの参加者がありました。最近の傾向とすると、以前は母親が子どもを連れて来るというケースがほとんどでしたが、父親が連れて来るというケースも見られるようになりました。

資料の２面で、10月に「わらべうた講座」を実施いたしまして、これがかなり好評でございました。70名以上の参加がありました。次に、名画座映画会ですけれども、前回もお話ししましたが、本年度前半は洋画の名作を上映したところ、来場者数はほぼ毎回100名を数えました。本年度後半も、80名から90名ぐらいの入場者数となっております。次の健康医療に関して、本年度は図書館の２階に「健康・医療情報コーナー」として、本・雑誌を並べる専門のコーナーを設けたことに加え、国立がん研究センターとの共催で、横浜市立大学の先生をお招きし、「胃がんとの遭遇」というタイトルで講演会を実施しました。その後、先生方に参加者からの質問に答えていただくという形を取りました。参加者の中心となったのは高齢者の方でしたが、30歳代、40歳代と若い世代の方もお見えになっておられ、世代を問わず興味・関心があるということを実感いたしました。

12月には市の国保健康課との共催で、「たばこ講演会」を実施いたしまして、16名の参加がありました。さらに、子どもを対象として消防本部との提携ですが、「消防士おはなし会」を３月14日に実施する予定をしております。職業体験については、中学生・高校生・大学生の参加があり、１年を通してかなりの事業が目白押しでした。

もう一つ、本年１月で現在使用しておりますコンピューターシステムのリース期間の終了ということで、更新をいたしました。具体には、パソコン等の機器の入れかえ、更にデータの移行、蔵書点検、最後に新しいシステムになり、職員の操作研修を含めまして約２週間にわたり

休館をさせていただきました。その間に公民館図書室も含めた全体の蔵書点検を実施いたしまして、合計で盗難に遭ったであろうと思われる不明図書の数が、現時点ではまだ正式な数字は出せませんが、85冊という数字が出てまいりました。蔵書数約20万冊の図書館としては不明図書の冊数が少ない図書館と言えます。その理由としては、日常の職員による館内の見回りと、盗難防止の仕掛けがしてあることが考えられます。以前は不明図書になることの多かったものとして、旅行ガイドがあげられますが、今回は１冊でした。恐らくそれはスマートフォン等で最新の情報を入手してしまうので、わざわざ図書館に本を借りに来る必要がなくなってきたことが、貸出冊数の減少ということにつながってくるのではないかという印象を持っております。

本年度の利用状況及び事業実施状況については以上でございます。

【高鷲会長】　どうもありがとうございました。貸出者数、貸出冊数、予約冊数とも減ってはいますけれども、微減ですよね。それほど大幅なものではない。あともう一つは、数は減っても数だけが指標ではないですから、この図書館はさまざまなサービスを展開していますね。先ほど伺いましたように、事業実施の資料に載っていない事業も含めて展開しているわけなので、そうした質的な面とどうあわせて評価していくかということが、やはり今後の公立図書館の一番の課題であろうと思っています。残念ながら、これという質的評価の方式がないものですから、それはもう試行錯誤していかなければいけないものかと思っております。汐崎先生は御存じでしょうが、公立図書館の質的評価に関して、参考にするような本が何冊かありますよね。

【汐崎委員】　そうですね。貸出冊数だけで図書館を評価するのは、ナンセンスですよね。やはり滞在型とか、特に逗子市の場合は高齢化し、館内閲覧としてご利用になっている方が相当数いらっしゃいますので、そのあたりについての何か指標があればいいのですけれどもね。

【高鷲会長】　指標ができればいいですね。やはり数にあらわさないと、なかなか理解していただけないから、質的なものをいかに数字化してということですよね。

【汐崎委員】　あとは例えば利用者の満足度調査のような形になると思いますが。

【高鷲会長】　一度取り組んでみなければいけないでしょうね。あともう一つお聞きしたいのは、横須賀市や葉山町の住民の利用が多いですよね。貸出冊数の減少に関して、逗子市の利用者とその他の市町村からの利用者で、減り方の違いますがありますか。同じような傾向なのでしょうか。

【小川図書館長】　おそらく、リンクはしているかと思います。葉山町や鎌倉市の方から、逗子の図書館にはきれいな本があるとか、明るい図書館という印象をもっている方が多くいると

聞いていますから、新しい利用者がこれからもふえてくる可能性もあります。総体的にはそれほどは減ってはいないという気がします。

【高鷲会長】　そういった調査をする機会がありましたら、またよろしくお願いします。絶対やらなければいけないわけではありませんが。

【汐﨑委員】　広域利用に関してはどうでしょうか。

【小川図書館長】　広域利用に関しては、鎌倉市、逗子市、葉山町、横須賀市、三浦市とで、公立図書館相互の申し合わせをしています。

【高鷲会長】　結構なパーセンテージがありますよね。

【小川図書館長】　登録者としては、葉山町民は7,000人を超えています。人口３万３千人の町ですから町民の20％を超えます。

【高鷲会長】　すごいパーセンテージですね。

【小川図書館長】　葉山町立図書館の登録者数というのは、当館と違って３年での更新をしていない可能性があるので、単純な比較はできませんが、逗子市立図書館からの貸出冊数は10万冊くらいになるでしょうか。両方の図書館を利用されている方も数多くいらっしゃいます。

【鈴木館長補佐】　統計を見る限り、市外の方の利用が全体の３割を占めています。

【高鷲会長】　結構規模が大きいですね。

【汐﨑委員】　私も、登録できますね。

【高鷲会長】　そうですよ。

【汐﨑委員】　でも、横浜市民は登録できませんよね。

【高鷲会長】　横浜市民は登録できません。横浜市の図書館の小説類は逗子市に比べて汚れや傷みが気になります。月曜日に、東京都の東村山市の図書館に行きました。蔵書は19万冊で、本はきれいでした。逗子市も本がきれいですね。

【小川図書館長】　汚れや傷みのひどいものはできるだけ買い替えを行っています。

【高鷲会長】　横浜市は買い替えが間に合いませんね。人口360万人の大都市ですから、大きいから大変です。

【小川図書館長】　予算の使い方もあると思いますけれどもね。

【辻委員】　統計を見ると、レファレンスの件数が減少気味かなという気がしますけれども。

【利根川専任主査】　同じ質問が相次いできた場合に、１件としかカウントしないケースもあります。

【辻委員】　そこそこという感じでしょうか。

【利根川専任主査】　レファレンスカウンターには、毎日多くの利用者が来られているので、決して減っているという印象はないですね。

【辻委員】　以前、会議の際に話題となりましたが、高齢の男性が、レファレンスカウンターの椅子を占拠していると伺いましたが。

【小川図書館長】　それはなくなっていると思います。職員との会話を求めて来ている方もおりましたけれども、利用者の方が図書館の使い方がわかってきた可能性があると思います。

【辻委員】　そうすると、本当の意味でのレファレンスの利用というのに近づいているということでしょうか。

【小川図書館長】　高齢者の利用はふえています。平成17年からの統計を見ますと、70歳代の利用者数は、右肩上がりです。60歳代も右肩上がり。子どもは、ほぼ横ばい。小学生は2012年ぐらいから減ってきていますが、その原因は、3.11の震災と学習カリキュラムの影響がどうもあらわれているようです。それから、20歳代、30歳代の利用者が3.11の震災の年から減ってきていますが、2011年がスマートフォンの普及が始まった年です。スマートフォンとは縁のない高齢者だけがふえているということですから、今後もまだふえ続けると思います。幼児の利用は全然減っておりません。幼児・小学生にリンクするお母さんたちと思われますが、40歳代になると減らなくなってきています。詳細に調べているわけではありませんが、統計的には、そのような状況になっています。

【高鷲会長】　きょうも、１時前にここに来て図書館を見ても、満員ですよね。新聞読むところや、閲覧室も満員だし、あれは10時からの会議のときに見る風景と全く変わっていないから、すごいですね。このまま夕方まで居るのでしょうか。

【若林委員】　９時の開館を待って行列していらっしゃる方も多いですね。

【小川図書館長】　最低でも10人ぐらいは待っていらっしゃいます。

【高鷲会長】　そうでしょうね。

【若林委員】　開館後は、すぐに席が埋まってしいますものね。

【高鷲会長】　確かに図書館は、さまざまな面で居心地がいいですよね。新聞も雑誌も本も、見てさえすれば文句は絶対は言われないし、出ろということを言われることもありませんからね。

【若林委員】　安全という信頼関係がありますよね。

【高鷲会長】　そうです。

【若林委員】　保護されているという感じだから、安心してゆっくりできるのでしょうね。

【高鷲会長】　逆に、この間、東村山市の図書館で、とても臭い人が来たんだけれども、これを図書館員が知らんふりしているのは、いけないのではないかと市長あてに投書が来たそうです。館長が困って、生活福祉課に行って、そういう人にどういう対応をしているかを、さまざまな施策がありますから、その情報を提供しようと思って行ったそうです。あと、路上生活を脱出するためのガイド資料のことについて、２月16日月曜日の朝日新聞に載っていましたよね。それと同じようなサービスをやろうとしたところ、図書館に行ったら、周りの人の御迷惑になっているようですから帰りますと、出て行ったそうです。東村山市はそれほど多くはありませんが、逗子市はそういった方はいらっしゃいますか。

【小川図書館長】　いらっしゃるとは思いますけれども、人数はそれほどいらっしゃらない。さまざまな経験をしてきたことから言えば、それらの方々は、残飯が出る地域でないと生活できない。その日のものを捨てるという店があって、あるいは早朝かもしれませんが、そこで食糧を賄っているようです。

【高鷲会長】　では、逗子のような住宅地ではだめでしょうね。

【若林委員】　図書館の方がお作りになっているソファーのカバーとか、さまざまな座席のカバーが本当に行き届いていて、私は、かつておもらしをされた椅子を発見して、それを職員の方に申し上げた後に、皆さんがとても気を使ってくださいました。大変なお仕事だと思います。

【鈴木館長補佐】　今回２週間の休館がありましたので、児童コーナーのソファーの上からカバーをかけました。職員は主婦の方が多くて、器用です。

【若林委員】　女性職員の皆さんでなさってくださったのですよね。

【鈴木館長補佐】　業者にお願いすると、ソファー１台につき10万円位の費用がかかります。

【若林委員】　費用がかさみますよね。

【鈴木館長補佐】　以前予算要求をしたことがありましたが、あえなく却下されてしまった経緯もあり、職員が自らの手で工夫したものです。

【若林委員】　御負担をかけることになるのだなと思いますね。私たちは清潔で助かります。

【小川図書館長】　生地を手に入れるのも一苦労します。

【若林委員】　日頃の点検が大切ですね。職員の方のお仕事が増えているのでしょうね。

【汐﨑委員】　児童書の利用が横ばい、少々減っているということですが、10月がとても多い

ですね。平成25年度は、文学と絵本が多いようですけれど、もう一つの資料でいただいたわらべうた講座等と関係があるのですか。

【利根川専任主査】　昨年度と一昨年度の10月は蔵書点検で休館をしていたものが、本年度は、１月に実施したので差が出ます。

【汐崎委員】　それもあるのですね。このわらべうたの講座は、講師は職員ですか。読み聞かせの会の方でしょうか。

【利根川専任主査】　読み聞かせの会の方です。

【汐崎委員】　やはり低年齢化しているのですね。低年齢化は仕方がないわけですが、そこからやはりつなげていける道筋をうまくつけられるといいですよね。現在、お父さんとお母さんと小さいお子さんといって、乳幼児向けのおはなし会がいいのだけれど、そこから先にうまく、小・中学生につなげていけるといいなと思います。子どもたちは忙しいですからね。きょうは校長先生がいらっしゃらないから、お話も伺えなくて残念です。

【高鷲会長】　あとは、やはり父親の子育て参加がふえているというのはどこも同じで、東村山市もそうですよ。この間、「第３次東村山市子ども読書活動推進計画」ができて、それを見ていたのですが、パブリックコメントで、子どもと女性の写真が多いが、男性の写真も入れてくれという要望があったそうです。男性が来ているという誘いにするためにも、必要だなと思っていました。これは４月１日にホームページに公開されるということですが、東京都が２月12日に、「第三次東京都子ども読書活動推進計画」を出したそうで、これまでは国と同じで、地域でどうする、学校でどうするという、そういう施設別のものであったのが、発達別に、乳児・幼児とか、そういうように変わったということでした。東村山市は最初からそういうようにしているので、これはやはり東村山市の図書館で実施している行事を下敷きにしたので、そのようにしたのですよね。東村山市もいまだに住民と図書館員の連携が上手にできているので、その点は助かっています。ボランティアがすごく多いです。

【汐崎委員】　東村山市は昔からそうですよね。住民の方の意識がすごく高いです。

【高鷲会長】　図書館をつくるときからそうです。私も、できてからずっとかかわっています。

【汐崎委員】　「健康・医療情報コーナー」ができて、今年は実際に講演会もされて、少しアクティブに動き出したという感じですが、いかがですか、講座とかを実施されて、どんな感じでしたでしょうか。現在は、病気になってからではなくて、予病とか、がん等でも自分がかかってからどうしようとういのではなくて、健康に暮らすためにはどうすればいいのかというの

で、すごく求められていると思います。ですから、健康医療等もこれから特にシニアの方が増えていくので、図書館ではすごく必要とされるサービスなのかなと思います。

【鈴木館長補佐】　コーナーができたことによって、求める資料が探しやすく、合理的になったのかなと思います。あと、奥まったところにあるので、ほかの方に知られたくないというところも、配慮ができたいいコーナーになっているかなという実感はございます。この前も、利用者の方で障がいの認定の級のことを調べたいということで、あまり知られたくないからということで、御自分でお調べになっていらっしゃいました。自分でわかる範囲で探して、どうしてもわからなかったら、お手伝いをしていただくからということで、あまりそこもお声かけしないでいます。スペース的にはよかったのではないかと思います。

【汐﨑委員】　ですから、言ってみれば、御自身で探せるようなコーナーでなければいけませんし、あとどうしてもプライバシー等の点で、気になさる方がいらっしゃるので、自力で探せるような、でも人目を気にしないで、という配慮は「健康・医療情報コーナー」には必要となりますよね。

【小川図書館長】　そこに入っていく人がいても、同じ何らかの病気を抱えている人同士ですね。ですから気にしなくて済みます。通常の分類の書架に並べると、全然知らない人が近くにいるけれども、配架を独立させていることもあって、同病相哀れむ、そういう感じがします。それから、「健康・医療情報コーナー」で利用が多いのは、闘病記です。片方が闘病記、もう片方は医学的な本という形で並んでいますので、両方で関連する本を探せるということになります。医療の解説書はどうしてもお医者さんが書かれた専門的な内容になることが多いのですが、闘病記は読みやすいという利点があります。

【汐﨑委員】　闘病記になると、どうしても選書と収集が大変だと思います。そこら辺がやはり職員の力量が問われるところですよね。闘病記はお医者さんが書いたものではなくて、御自分の経験を書かれたものだし、出版も自費出版だったりする。選んだり入手したりするのがむずかしいけれど、求めていらっしゃる方がいるから、図書館としてはそれをきちんと選んで、責任持って手渡さなければいけませんね。

【小川図書館長】　少なくとも自費出版あるいはそう思われるものについては、最初から選ばないで、一定の評価が出てきたら自費出版でも取り上げるという形はとっています。医学書については、最新のものでないと、最新の医療については教えてもらえないという形があるので、できるだけ新しいものを買い揃えるようにしていますけれども、ただ並べているだけではいけ

ないと考えています。

【高鷲会長】　医学、薬学、そして、法律上の問題も出てくる。それらのジャンルのものは、古いものでは全く役に立ちません。

【小川図書館長】　それから、講演会は、国立がん情報センターとの共催という形をとっています。国立がん情報センターでは、慶応大学の田村先生を中心に、研究会を持っていまして、その研究会では科研費のような補助金を受けて、国内２カ所で実験的に普及活動に取り組もうということです。１つは関東では逗子市、もう１つは関西では大阪府堺市で活動することにして、３年間の事業という形をとります。

【汐﨑委員】　そうすると、３年間ということは、またあと来年度と再来年度、予定としては事業を計画できるのですね。

【小川図書館長】　それから先、必要があれば、要望できるのでしょうけれども、これから試行錯誤しながら取り組んでいくということになっています。

【汐﨑委員】　そうすると、図書館員もさまざまな知識を身につけなければいけないから、大変ですよね。健康情報についても、この前、大阪で研修というか、図書館員のためのワークショップをするということで、田村先生が担当なさって、なかなか人が集まらないのではないかと心配していたところ、満員御礼だったそうです。このように職員自身が資質を高めていかないといけない。でも、やはり健康・日常生活に直結するものですから、大事にしたいですね。児童サービスも私はかかわっていますので、すごく大事だと思いますが、さまざまな切り口がまだまだあるのではないでしょうか。

【小川図書館長】　今回の話も、私のところに話があったきっかけも、引き受ける図書館がない。余計な仕事になるわけですからね。正直言えば、職員にも負担をかけることになります。

【若林委員】　命にかかわることだから、とても大切ですね。

【小川図書館長】　大事なことだけれども、職員にとってみれば、この上まだ仕事をやらなくてはならなくなります。

【汐﨑委員】　たとえばソファーを縫うのもやらなければならないわけですね。

【小川図書館長】　大事なことはわかっているけれども、どのようにそのための時間をつくっていくかという、やるからには一定の人を集めなければいけないし、市役所の担当所管との交渉もあるしということです。関西での担当は、堺市立図書館ではなくて、点字図書館が窓口となってくれました。

【高鷲会長】　でも、図書館は、やはり人と人とが交流する、そういう場所ですよね。そういう意味から言うと、こういったことは、とても大事で、さきほどの数字としては現れないサービスの向上ですよね。それを大事にしなければなりませんね。

【小川図書館長】　そうです。職員をそういうところへ使えば、個々の職員の負担になるのはわかってはいますが、職員にとっては大事なことなのであろうと思っています。しかし、大変は大変です。

【高鷲会長】　そうですね。11月の末に福島県の喜多方市へ行ってきました。そこの館長が言っていました。私の仕事は、とにかく、まちの中を歩いて、さまざまな人に会うことであると。それが一番の自分の仕事だと、笑っていました。そうでなければ、まちぐるみでの仕事ができないのですよね。さまざまなことを巻き込んで取りくまないと、単に本を貸したり返したりするだけの場所になってしまうので、昭和40年代の初めにできた図書館で、老朽化も著しいですが、いまだに３段、４段階段を上らないと正面玄関に入れないという珍しい建物です。それでも、そういった図書館ができる。あと小部屋になっていて使いにくい。冬になって雪が降ったときどうするかというと、道路からずっとアプローチがあって、雪かきをして、それで車椅子で行けるようにして、どうぞ来てくださいと連絡します。ですから、腕がたくましくなりましたと職員の方は笑っていました、猪苗代町は、郡山市と会津若松市の中間ぐらいにありますが、去年の４月に町立図書館ができました。すばらしいですが、駐車場が60台分あり、猪苗代湖を前面に、後ろが磐梯山。雪がまともに降ります。吹きだまりになるから、雪が降ったら朝どうするのだろうと、そのときには男性職員に来てもらって雪かきをしますと笑っていました。今年も結構雪が降って大変だったようです。

【汐﨑委員】　なかなか難しいと思います。高鷲先生がおっしゃるように、図書館だけではできないことに手を広げて、さまざまなところと共催して取り組んでいくために、これから本当に求められていくところではありますが、例えば先ほど話した大阪市のように縦割りで、こっちはやるけどこっちはやらないとか、そこのところが、大きな自治体になればなるほど、壁が厚くなると思います。逗子市ぐらいの規模でも、私もかつて現場にいたからわかりますが、役所の壁というか、セクショナリズムのようなものがある。でもやはりそういうところをきちんと開いていかないと、いいサービスはできないですよね。難しいですね。

【高鷲会長】　私の知っているところで多いのは、指定管理者のところの館長で活発に動いています。それが仕事だと言って、喜多方市もそうです。山梨県韮崎市の図書館、岐阜県高山市

の図書館も。まず市役所、市議会に行く。それから一般の地域社会に行く。図書館の中の仕事はみんなに任せるよと笑っています。

【小川図書館長】　図書館だけで動くのではなくて、市役所が納得して動いてくれている。医療講演会の当日は市長、副市長と教育委員会の幹部職員も一緒に顔を出してくださいました。

【高鷲会長】　それは、やはり常日ごろ図書館が教育委員会や市長部局とうまく連携して、コミュニケーションがとれているということですものね。

【汐﨑委員】　この事業は、継続していけそうですか。市役所全体でのことですからね。

【小川図書館長】　どれだけ図書館を信用するかという問題だと思います。

【高鷲会長】　常日ごろの活動が大切ですものね。特別なことに取り組んでいるわけではないですからね。

【小川図書館長】　医療講演会を図書館主催で行うというのは、何で図書館がやらなければならないのかと信じないところもありました。

【高鷲会長】　やればやったで、またほかのところでやるよりも、違うでしょう、客層が集まるから、また違うのでしょう。

【小川図書館長】　私もそう思います。

【汐﨑委員】　でも、このあたりの事業は、大変でしょうけれど、継続して成果が見られるようになるといいですね。

【高鷲会長】　いいですよね、本当に。

【汐﨑委員】　逗子市だけの問題ではないと思います。やはりそうやって考えあぐねている。分からない。怖いからやらない。でも、一方では前例主義なので、あるところで成功すると、相乗りする所も出てくる。

【高鷲会長】　それは絶対やりますね。

【汐﨑委員】　そういう意味では、逗子市という一つの自治体の問題ではないと思います。モデルケースになると思います。

【鈴木館長補佐】　汐﨑委員がおっしゃったとおり、市と図書館との連携というのがこれまで図書館にとって弱いところ、欠点でした。今回のこの講演会を機に、担当所管との連携というのが少しずつ市としても門戸を開くという形になり、それが、次につながる12月14日の「たばこ講演会」、これも市との共催という形で実施していくことになります。その辺が広がりつつあるかなというところですね。

【汐崎委員】　消防署との連携となると、ＡＥＤの使い方等の講習もあるのでしょうね。私は、ＡＥＤの使い方がよくわからないので、これでは人を救えないなと思っています。そういう生活に必要な情報の共有は、どこまで図書館が取り組めばいいのかが難しいですが、自分たちでできないところは、コーディネートしながら他の部署と一緒に広めていくというのが図書館の大事な役割ではないのでしょうか。

【高鷲会長】　実際問題として、逗子市は高齢者が多いわけだから、高齢者向けのそういう行事を実施できればいいですね。

【小川図書館長】　消防署の職員が紙芝居を時々借りていって使ってくださいます。そういう意味でも、消防署にとっても共催は大事です。

それから、がんに関して言えば、学校の子どもたちに講演ができないかという話が持ち上がっています。具体的にはまだですが、突然親ががんになったときに、子どもたちがどうすればいいのかという問題が当然あるわけですね。そのあたりについても、いつかどこかで取り組んみたいと話はしています。

【高鷲会長】　特に若年性のがんは、怖いですからね。半年もたたないうちに死んでしまう場合もありますから20歳代、30歳代はね。

【汐崎委員】　若年性認知症とかもありますものね。

【小川図書館長】　それもありますね。

【汐崎委員】　でも、病気というのは、私たちの生活の周りに本当にあって、それは高齢者に限られた問題ではないし、社会全体で共有していかなければいけません。介護などのこともそうですよね。取り残される人が少しでも少なくなるような環境を作っていかなければいけない。それは病院のみではできませんよね。

【小川図書館長】　この打ち合わせのときも話題としては出ましたが、死ぬとき、死んだ後の問題などについても、病院では全くできないけれど、図書館なら可能だろうという話になっています。

【汐崎委員】　日常生活の中で、トータルに考えていく必要がありますね。

【小川図書館長】　そういったことも含めて、このプロジェクトには取り組んでみたいという話になっています。

【高鷲会長】　まさしく、終活ですね。

【汐崎委員】　そろそろ考えなければいけない。当然のことながら、病院は病気を見るところ

で、図書館では手術ができないわけです。でも、例えばそこに至るまでのプロセスや、お亡くなりになった後どうなるかということに関しては、病院は何もしてくれないですからね。

【小川図書館長】　講演をされた横浜市立大学の市川先生は、50歳前後だと思いますが、自分の父親に終活の準備に入れというけれど、なかなか取り組んでくれないとおっしゃっていました。自分が医者だから、余計気になるのだけれどともおっしゃっていました。そういうことも含めて、手を打っておく必要があると思います。

【汐﨑委員】　子どもへのサービスに関しては、例えば保育園があると思います。幼稚園・学校と、みんなで子どもと連携していきましょうという動きは昔からあり、大分敷居が低くなってきて、子育て支援もありますが、そこだけでは、足りないと思います。ですから、さらに求められているのは、例えば病院などのセクションとの連携など、対象は子どものみではなく、一般の人も参加することによって、より充実したことが図書館でコーディネートできる、というところを示すために、逗子市ぐらいの規模だとさまざまなことが展開できるのかなと思いますね。

【高鷲会長】　図書館コーディネート、さまざまなことができそうですね。相当忙しくなりそうだけど。

【汐﨑委員】　また職員の方の作業は、時間調整も大変ですよね。健康医療等の取り組みは、やはり専任の担当の方がいらっしゃいますよね。

【小川図書館長】　一応専任は置いていますけれども、コ―ナーをつくってから専任になったところがあるわけですから、実際は兼務となっています。

【高鷲会長】　大変だけど、この続きはまた一番最後に話題にいたしましょう。

【汐﨑委員】　話が膨らんでしまい、すみません。

【高鷲会長】　では次に、議題２の平成27年度図書館事業計画案及び予算案について、事務局より報告をお願いいたします。

【利根川専任主査】　それでは、平成27年度の予算に関して御説明いたします。資料３をごらんいただきたいと思います。27年度の当初予算の要求状況について説明いたします。まず、逗子市の財政状況についてですが、歳入については本年度より来年度はさらなる減収が見込まれている一方で、逗子市では高齢化の進展に伴って扶助費の自然増が待ち構えております。国民健康保険事業、後期高齢者医療事業、介護保険事業、３つの特別会計を持っておりますが、これらの事業は増加が見込まれておりますので、来年度の予算編成についても財政課より当初か

ら５％のマイナスで要求してくださいという指示が出ておりました。その指示に基づいて予算をつくっていったわけです。その結果がこの資料３に出ている５つの事業についてのそれぞれの査定の結果です。図書館では５つの事業を持っておりまして、一番上の図書整備事業については、本年度よりもマイナスになっております。図書購入費に関しては、2,001万8,000円、かろうじて2,000万円を超えたところです。昨年度より市議会におきましても、特に雑誌については女性誌があまりにもタイトル数が多過ぎやしないか、減らしたらどうかという御意見も出たりいたしました。書籍は、できるだけ現状維持をしたいと思っておりますが、逐次刊行物、特に雑誌については、来年度はタイトル数を減らさざるを得ない状況です。次に、視聴覚資料としてＤＶＤを、ここ数年80万円から90万円ぐらいの購入を行ってまいりましたが、来年度は減らして50万円程度にせざるを得ない状況です。本年度は逗子市制施行60周年ということで、その分のプラスアルファの図書購入予算がついておりましたので、それも含めて減額という形になりまして、来年度はかなり図書整備事業に関してはかなり厳しい状況になると思います。

次の図書館活動事業に関しましては、減額の幅が大きいのですが、これは本年度、３月に設置を予定しておりますブックポストの購入代、壊れてしまいました拡大読書機の購入代が来年度は予定がありませんので、その分が減っております。

次の維持管理事業とシステム管理事業に関しては、細かい消耗品の購入費等を少しずつ要求に対して減らすことで、ここは微減となっております。

最後の図書館事務費に関しましては、非常勤特別職としての館長の報酬を100万円減額いたします。館長の出勤日を、本年度は週４日の出勤としておりますが、来年度は週３日の出勤という形をとらせていただきますので、その分の報酬の減額となります。

全体としては、本年度よりも約８％の減という形での査定となっておりまして、この予算案をもって市議会への提案となります。来年度は本年度に比べますと相当きびしい数字になっておりますので、その中でも特に、先ほどお話に出ましたけれども、行事等に対しては、ここは人手をかける部分ですが、本年度のサービスレベルを維持できるように、職員一同頑張ってまいりたいと考えております。予算については以上でございます。

【高鷲会長】　ありがとうございました。蔵書整備事業、図書購入費ですけれど、図書購入費は一番多いときは、どのくらいあったのでしょうか。

【利根川専任主査】　ちょうど10年前に旧図書館の最後の年度でしたが、そのときに3,000万円近くの資料購入予算がありました。通常2,500万円ぐらいあり、それに将来の新図書館がで

きたとき用に、プラスアルファということで、500万円を、特別な配当がありました。そこからは、じわじわと減ってきております。

【高鷲会長】　私の知っている東京都の小平市では、一番多いときは5,000万円ぐらいあったのが、あっという間に半分になりましたね。それがあるものだから、現在の2,000万円が、かつては最高額がどれだけあったのか興味がありました。

【小川図書館長】　この図書館は、平成17年に開館したときは決算の数字を見ますと、2,400万円弱ぐらいですね。旧図書館の時代に3,000万円ぐらいあったというのは記憶しています。

【辻委員】　新館ができるに際し、特別に500万円をつけると言われたのはとてもよく記憶しています。

【小川図書館長】　それは新館になる時ですね。

【汐﨑委員】　公民館図書室が移管になることに際して、蔵書の手当てというのはありますか。もともとは図書館の蔵書ということでしょうか。

【小川図書館長】　これまでも図書館の費用で公民館図書室用の資料を購入していました。今回は、その上乗せということではないですね。

【汐﨑委員】　雑誌はどうなのでしょうか。休・廃刊というのがかなり増えていますか。困りますよね、途中で刊行をやめられるのは。また、女性誌は付録をつけなくてもいいから安くしてほしいですよね。

【若林委員】　最近の女性誌は、すごい付録をつけて売っていますよね。

【汐﨑委員】　全体的に出版件数も少なくなっているのかもしれませんね。それでもやはり多い、と言われる。利用者の皆さんは、読みたい方は読みたいですから、そのあたりのバランスが難しいですね。

【小川図書館長】　雑誌を借りられるのは、月遅れになってからですけれども、利用されるのは、ほとんどリピーターという感じですね。自分はこの雑誌という感じで来ている方が、多く見受けられます。

【汐﨑委員】　自分のターゲットを絞って来館されるのでしょうね。

【辻委員】　雑誌スポンサー制度というのが、図書館に広がっているという話を聞きましたが、藤沢市かどこかがいい形で採用していると聞きましたが、それについて説明していただけますか。

【鈴木館長補佐】　2月の市議会の中でも、雑誌のスポンサー制度についてということで御質

問をいただきました。近隣の市町村の図書館を調べたところ、横須賀市も鎌倉市も横浜市も、スポンサー制度を導入しています。ただ、実績として鎌倉市は現時点でスポンサーはゼロ、横須賀市は２年前から制度がスタートして、２年前のときにはスポンサーが１団体ついたそうです。今年度もスポンサーは１団体だそうです。なかなか企業側からすると図書館にスポンサーということで導入するメリットがあまりないということで、長期間にわたり継続してお受けいただける業者がないということ。それから図書館で雑誌を購入する場合、やはり配架の都合があるので、新しい号が出たときには、午前中に本屋さんから図書館に納品してもらい、そして装備をし、配架する。できればその日のうちに利用者に提供したいという考えがあるので、その辺の契約をしているわけですが、スポンサーさんにその辺をお願いすると、契約をして本屋さんとやりとりしなければいけないということで、手間がすごくかかります。その辺でなかなか手を挙げてくれないということもあるようです。

逆に現金を出してもらうとなると、市の会計制度があるので、一度雑入として歳入に入る。それからまた歳出で出すという事務的な負担があるということで、その辺がうまいぐあいに回っていかないというのが現状だということで、近隣の市町村図書館からは回答をいただいています。

【小川図書館長】　逗子市は企業がほとんどありません。はっきり言って、お店等に余裕があるとしても、毎年２万円、３万円年間出してくださるとなると、売り上げの中からですから、そこは難しいという話です。雑誌自体に魅力がなくなっていますから、例えば総合誌で言えば「中央公論」・「世界」・「文藝春秋」等は、現在お読みになる人がほとんどいない。「文藝春秋」が売れるのは、芥川賞や直木賞の受賞作を載せるからです。「中央公論」「世界」も同様です。現在、電車の中で週刊誌を読んでいる方はいらっしゃらないじゃないですか。どの週刊誌もすっぱ抜きの記事で評判を得て、それで売っているので、読者側は、自分で買うのはもったいないから、図書館に読みに行くというところもあるようです。雑誌の役割自体は、出版社もあきらめているのではないでしょうか。それを無理して、広告費で収入を上げようとしてもなかなか難しいですね。

【高鷲会長】　そうですよね。広告収入がすべてですからね、雑誌は。

【小川図書館長】　横浜市では、雑誌スポンサー以外にも広告を出しませんかとホームページで呼びかけていますけれど、あまり載っていません。ですから、景気がよくなったという話ですけれども、地方自治体に回ってくるのは、まだまだ先ではないかと思っています。逗子市で

はスポンサーが役に立てるのは難しいかもしれません。

【若林委員】　雑誌の書架が３面ありますが、40歳代の方は、うちの娘も含めて、借りる方は、子育てでお金もかかるから、雑誌を借りられるというのは助かるのではないでしょうか。結構利用者は多いと思います。

【小川図書館長】　どういう情報を得ているかということですけれども、雑誌に載っていること、例えば育児に関することなどでも、後になって本としても出版されます。「週刊朝日」などは病院情報を入手して、特大号として売っているだけではなく、何カ月後には、それらの情報をまとめて、本として売る形をとっています。雑誌でなければいけないということではなくなりつつあるようです。ただ、雑誌のソファーでごらんになる方がいらっしゃるように、ある程度は必要かとは思いますけれども、たくさんのタイトル数を置くということについては、考え直してもいいのかもしれない時期に来ています。もう一つ、雑誌はスマートフォンやタブレット端末から情報を得るという形にもなりつつあり、そのほうが写真がきれいですから、若い世代の雑誌の利用が減ってきているのだと思います。

【高鷲会長】　そうですね。週刊誌でしたら、もうインターネットの情報で十分ですものね。

【汐﨑委員】　ですから、新聞を電車の中で読んでいる人が減りましたよね。

【若林委員】　新聞の講読者もどんどん減っているようですから。

【汐﨑委員】　通勤電車の中で、昔はこうして、縦長にして読ましたよね。

【高鷲会長】　スマートフォン、タブレット端末で、みんな漫画を見ていますからね。

【若林委員】　でも、結構隣の席で見られるのは、嫌なものですよね。

【高鷲会長】　新聞を読んでいるのは、競馬・競輪の新聞を持っている人ですよね。

【汐﨑委員】　スポーツ新聞ですね。

【高鷲会長】　横浜市の日ノ出町駅も大勢いますね。

【汐﨑委員】　京浜急行沿線は多いですね。ギャンブル路線と言われていますね。

【高鷲会長】　日ノ出町駅で大勢降りて行きますからね。

【汐﨑委員】　電子媒体が普及するにつれて、ニュース性の高い情報の入手は、特に若年層は速いですね。

【小川図書館長】　情報入手が速いのは、新聞ではなくて、電子媒体ですからね。

【汐﨑委員】　私ですら電子書籍を買おうかとか思っているところです。文庫本とかでしたら、「ｋｉｎｄｌｅ」とかのほうがいいかなとかと思っています。

【小川図書館長】　例えば「文藝春秋」や「中央公論」とかは、かつてはそれを読んで教養を身につけていましたが、それが新書になりかわった。新書で売っています。ですから二番煎じ、三番煎のようなものが、総合雑誌にはありますよね。

【高鷲会長】　現在の新聞はみなそうで、かつては総合雑誌に載っていた論文が、本に仕立てられて出版しています。

【若林委員】　私が、会社に勤めていたときに、インテリな感じの方は、出勤するときに「文藝春秋」や「中央公論」をお手にされていましたものね。

【小川図書館長】　それはもう化石的な人でしかないですね。

【高鷲会長】　小川館長、結局、逗子市の予算は、こういう硬直化した状況が直らないのでしょうね。

【小川図書館長】　逗子市は、高齢化率が30％を超えているわけですね。逗子市は所得税、住民税のまちです。そこで高齢者が増加するということになると、年金生活者ですから、市としては出す方はあるけれども、入る方は少ない。企業が少ないということもあり、そこはつらいところですね。

【高鷲会長】　それはきついですよね。この状態が長く続くわけですからね。

【小川図書館長】　ですから、例えば自動車や電気の業界が、6,000円の賃上げと言っているようですが、賃上げしたところで、国家公務員に反映するのは来年の人事院勧告後ですから。国家公務員が来年だとすれば、地方公務員に反映するのは再来年の話で、それまでは、出てくるたびに削減されます。

【高鷲会長】　景気が悪くなれば、元のもくあみですものね。

【小川図書館長】　そうです。それが年金に反映するのは、そこからさらに先ですから。当分入ってこないと考えるしかないのでしょう。

【高鷲会長】　年金は、減ることはあっても、ふえることはないでしょう、恐らく。

【若林委員】　そうですよね。

【鈴木館長補佐】　来年度の一般会計予算は182億６千万円ですが、その中で福祉関連予算が４割を占めています。そして、その残りの６割を教育費・総務費・消防予算・土木費等で分け合う形になります。

【高鷲会長】　市債の返済、さらに補正予算がありますよね。

【鈴木館長補佐】　その福祉関連予算の４割は、減ることはないでしょうね。これからふえて

いきますから、残りをみんなで分け合ってという形は、当分続いていくことになりそうです。

【小川図書館長】　人件費と借金の返済も含めて98%。残りの２%でこの手の仕事はやらざるを得ないわけですから、あと削るとすれば、借金は削れませんから、人件費しかありません。

【高鷲会長】　ですから、どんどん非常勤職員の率が増えるということですからね。

【汐崎委員】　非常勤率の中に、館長も入りますね。

【高鷲会長】　逗子市は、過度になりすぎましたよね。

【小川図書館長】　逗子市に限らずですけれども。

【高鷲会長】　もうこれ以上は削れないということですね。では、何かありましたら、後でまたまとめることにして、議題３の公民館図書室の動向について、事務局からお願いいたします。

【鈴木館長補佐】　前回の図書館協議会のときにもお話をしましたとおり、現在の公民館がコミュニティセンターに本年４月から転用されるのに伴い、公民館図書室も図書館分室に衣替えするという計画を進めています。それで、１月19日から２月３日までの間、コンピュータシステムの更新のための２週間にわたる休館の期間を活用し、図書館分室にするための改装工事を行いました。公民館図書室の３割程度のスペースを縮小し、それから蔵書数も３割程度削減する計画のもと、改装工事を実施いたしました。何とかコンパクトな形でまとめて、２月４日からリニューアルオープンという形をとりました。３月いっぱいは、公民館図書室という名称ですが、図書館分室化に向けてスタートを切っています。利用者の声としましては、見た目の印象として、子どもの本が少なくなったということで、残念に思っているという声もいただいていますが、今のところは順調な滑り出しとみています。今後もう少し状況を見ながら、例えば図書館だけで開催している本の展示、そういうものを巡回で図書館分室のほうに持っていき、地域の方に見ていただいたりする。あるいは今日のおはなし会は、子どもたちがベビーバギーで大勢参加してくれました。ベビーバギーが12台ぐらい置いてありました。近くの方しか参加できないことを考えると、やはり地域でのそういったおはなし会が必要なのではないかと考えています。先ほどから言っているとおり、非常勤職員が多く人数も厳しい中、新規の事業を行うというのも難しいのですが、職員はやりたいという気持ちをすごく強く持ってくれていますので、何とかうまくできたらいいなということで、少し様子を見ながら進めていきたいと思っております。

【高鷲会長】　はい、ありがとうございました。人員の配置はとりあえず固まりましたか。どのような配置にするかは、決まっているのでしょうか。

【鈴木館長補佐】　人数的な部分は変わりません。平成27年度から任期付職員については、採用試験を実施いたしまして、人数は４人で変わりはありませんが、ただ、メンバー構成がかなり変わるというところで、その部分では館長も頭を痛めております。

【汐﨑委員】　つまり、新しく加わる方がいらっしゃるのですね。

【小川図書館長】　任期付職員としての経験のある人は１人のみで、残り３人は全く初めてという形になります。それから、非常勤職員として10年で退職される方が２人。ですから、中核となる職員が手薄になります。

【汐﨑委員】　ただ、非常勤職員が10年で退職されるのは、分かっていたわけですね。任期付き職員４人のうちの１人しか残れなかったということですね。その職員の入れ替わりが、どれだけ痛いのかということですが、やはり仕方がないのでしょうかね。

【鈴木館長補佐】　判断基準というのが、やはり成績評価が一番大きい状況になってしまいますね。

【小川図書館長】　客観的にはできないですね。

【汐﨑委員】　成績評価というのは何の成績をもって評価するのでしょうね。恐らく、いわゆる筆記の結果であったりするのでしょうが、それで横並びに評価していいのかと。そうすると不公平だ、図書館だけはという話になるのかもしれませんけれども。

【小川図書館長】　それは、説明できないとなりませんね。ですからレポートが極端に悪いというものがあれば、それはそれで評価としては低くなりますけれども、そういうことはなかったわけですね。あとはどう判断するかということになります。欲しい人を採用したという形になると、それはそれで全て説明しなければなりません。

【汐﨑委員】　そうするとえこひいきだとか、不公平だとなってしまいますね。

【鈴木館長補佐】　レポートの場合の評価も難しいですね。。

【小川図書館長】　それは司書だから何でもできるというわけではない。それと一緒です。

【汐﨑委員】　ただ、現在の図書館の状況で考えると、職員がこれだけ変わるのが分かっているのに、さらにそこでまた３人削られるのが、いかに厳しいかということに、何か配慮がなかったのかなと思うのですが。

【小川図書館長】　それは館長の不徳のいたすところです。

【汐﨑委員】　そうではなくて、一律の人事というのが、図書館の業務的にはどれだけ響くのかということですが。

【小川図書館長】　図書館だけで勝手に選ぶというわけではなくて、教育委員会として選んでいますから。教育委員会の意見も反映していますのでね。それもあわせて、判断していかざるを得ません。

【汐﨑委員】　ですから、事業が広がっている中、予算は年々縮小している、公民館の仕事も増えている、なのに職員がこんなに変わってしまうとなると、働く人たちも、もちろんやりたくないとか、そういう人がいるわけではないでしょうが、やはり経験知がなくて担当する人も大変でしょう。それに、それまでその仕事を担当してきた人が、仲間が少しずつ減っていき、その分を背負っていかなければならないから大変だろうしというところで、すごく厳しいかなという印象です。

【小川図書館長】　それは厳しいです。ですから、全く同じスタートは切れません。４月以降は、２カ月、３カ月はいわゆる日常的な運営だけを中心に考えていくことになります。

【汐﨑委員】　かつ館長の出勤日が１日減るという形ですよね。仕事が回らなくなるのではないかと心配です。

【小川図書館長】　ですから、図書館分室も、さきほども話に出ましたが、４月からすぐに巡回展示やおはなし会を実施するというわけにはいかない。少し落ち着くまではできません。

【高鷲会長】　そうでしょうね。

【汐﨑委員】　おはなし会は、市民協働のような形を考えていらっしゃるのでしょうか。それとも職員を中心にとお考えでしょうか。

【鈴木館長補佐】　まだ具体的なところまでは考えておりません。

【汐﨑委員】　難しいですよね。ボランティアさんにお願いするにしても、やはり図書館の方針とか、何のために取り組むのかというものがそこにはある。ですから、ただプレイルームで遊ぶのではなくて、やはり資料と子どもを結びつけるために、という姿勢です。このあたりは辻委員の御意見も伺うのがいいと思います。図書館を単なる保育園化させてしまうわけにはいかないですものね。

【小川図書館長】　かつて、ある図書館で私の生きがいだからということで、絶対やめてくださらない方がいらっしゃいました。おはなし会において、図書館の方針とは違うものを実施したがっていました。

【汐﨑委員】　それは確かに自己実現とか、自分がやりたいという意思表示なのでしょうね。

【小川図書館長】　私の生きがいを奪うのかとも言われました。

【高鷲会長】　しかし、ボランティアは、そういうものではありませんからね。

【若林委員】　本当はそうですよね。

【高鷲会長】　受け入れ側の思想もあるわけですからね。

【若林委員】　聖路加病院のボランティアがものすごく厳しいそうですよ。病院で教育します。そしてオーケーが出ないと病院ボランティアができないそうです。

【小川図書館長】　準備期間が必要ですからね。

【汐﨑委員】　意識をちゃんと持ったボランティアさんを育てていくのが、やはり職員の仕事になってくると思うので、そのあたりも難しいですね。

【小川図書館長】　ボランティアでそういう教育、指導を汐﨑委員にお願いできますか。

【汐﨑委員】　ボランティア講座ですか。

【小川図書館長】　ボランティアの講座を担当していただき、お母さんたちを育成していく。

【汐﨑委員】　私がですか。いいですよ。ここで言っちゃったけれど。

【高鷲会長】　では実現しましょうね。

【汐﨑委員】　図書館でできることは限られているけど、だからといって、都合のいいように市民の方を使うというのも身勝手な話だし、私たちはボランティアなのだから、何でもかんでも好き勝手にしていいのよ、というのもおかしな話ですよね。

【高鷲会長】　それもおかしな話ですよね。そこのところが大事になります。

【汐﨑委員】　そこのところは、やはりボランティアの方を上手に一緒にコーディネートしていくことは、これから絶対求められていくことですよね。

【高鷲会長】　どこでもそうですよ、それはもう。

【汐﨑委員】　ただ、ボランティアの希望者がいるのだから、お願いすればいいというのではなく、本来は図書館の目標があって、そのためにみんなで取り組む必要がありますよね。ですから図書館ボランティアさんとボーイスカウトが合同で取り組もうという形もありうるわけです。

【高鷲会長】　学校なら学校の教育方針があるわけだから、それに合ったものを展開していかなければなりませんね。

【小川図書館長】　ボランティアは、有料ボランティアという言葉にあらわされるように、割に有料のケースが多く、お金をもらわない時には、好き勝手やれるんだと理解されている方もいます。

【高鷲会長】　でも、それもおかしいですよね。それならば、本当にそこだけ放り投げて、勝手に丸投げになっているわけだから。責任が持てませんね。

【汐﨑委員】　ですから、それはお互いに責任を放棄しているとことになりますね。ボランティアさんは好き勝手に実施するし、図書館もそれを見て見ぬふりしているということですから。

【小川図書館長】　数字だけで活動しています。

【汐﨑委員】　おはなし会に何人子どもが来ましたとか。

【高鷲会長】　市民協働もきちんとしていますと。ただ、そう言っているだけですから。

【汐﨑委員】　「協働」という言葉は一歩解釈を勘違いすると危険ですね。私は、だんだん墓穴を掘っていくような気がします。

【高鷲会長】　足元に大きな穴を掘ることになりますからね。

【若林委員】　私は、椅子のカバーぐらいはボランティアで参加しますので、声をかけてください。

【小川図書館長】　なかなか大変でした。

【汐﨑委員】　でも、それはほとんど職員のボランティアですよね。やはりそうやって自分の職場を気持ちのいい、利用者に対して図書館として機能するようにするためにも、自分が少し手弁当ででもという気持ちはすごく大事なことだと思います。自分の仕事に誇りを持つこと、よりよい職場にしたいと思うことは、すごく大切なことだと思います。それがあまりにも個人の負担になるような形では、雇って働いてもらっているわけですから、少しおかしくなってしまう。もちろん、その方の志をすごく大事にしなければいけませんけれども、それに甘えているのもおかしいという気はしますよね。

【高鷲会長】　小川館長をはじめ、墓穴を掘るようなことはしないでしょう。

【汐﨑委員】　でも、きちんとした流れをつくっていかないと。どんどん人が減らされ、予算も減らされている中、一方で事業を広げていかなければなりませんからね。

【高鷲会長】　一番大事なのは人ですものね。どういう有能な人を、確保するかということですから。

では、議題４のその他について、事務局からお願いいたします。

【鈴木館長補佐】　図書館協議会委員さんの任期ですが、今月末で２年間の任期が終了いたします。それで、各委員さんにおきましては、次期委員のお引き受けくださることを確認させていただいて、皆さん全員の同意を得ることができました。そこで、２月９日の教育委員会にお

諮りさせていただいて、全会一致で御承認をいただきましたので、平成27年３月１日から29年２月28日までの２年間、引き続きよろしくお願いしたいと思います。次回は、恐らく５月ぐらいになる見込みですが、平成27年度の第１回の図書館協議会を開催するときに、委嘱状をお渡しさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

先ほど図書館のコンピューターシステムの更新を行ったということでお話しさせていただきましたが、以前から委員の皆さんから図書館協議会の会議録をホームページにアップできないかという要望を受けまして、新しいコンピューターシステムには図書館協議会の議事録を入れてあります。過去３年間にさかのぼり入れてありますので、機会があったらどうぞごらんいただきたいと思います。

それからもう１件は、悲しいお知らせというか、御報告ですが、平成18年から23年まで図書館協議会委員に御就任いただいていた伊藤尚武委員ですが、昨年平成26年４月16日に御逝去されました。御連絡があったのが11月になってからでしたので、委員の皆さんへの御報告が遅れてしまいました。この場を借りましてご報告させていただきます。

【高鷲会長】　お元気でしたのにね。

【鈴木館長補佐】　平成21年から23年の２年間は会長をお引き受けくださいました。伊藤先生は、元国立国会図書館の副館長だったということの御縁で、阿刀田高先生の講演会を企画できたという経緯がございます。

【高鷲会長】　この間、ホームページを見る機会がありましたが、すっきりしましたね。

「その他」まできましたけれど、議題の26年度の利用状況、27年度事業計画案・予算案、公民館図書室、これらについて何か再度御要望なり御質問なり御意見なりございませんでしょうか。

【汐﨑委員】　私は、さきほど言いそびれましたが、図書の亡失率がすごく低いですね。私は、東京都の大田区の図書館に勤めていましたが、図書の亡失率がものすごく高かった記憶があります。

【高鷲会長】　どのくらいでしたか。

【汐﨑委員】　言えないぐらいです。やはり持っていってしまう。規模も大きく、館数も多いので、さまざまな人が入ってくるのもありますが、そういう意味では逗子市は、文化的な市民の皆さんの常識的なというか、そういうものがすごくあるようですね。でも、昔からではなくて、このところすごく減っているということですよね。

【辻委員】　こんなに少ない数字はなかなかないですよね。

【汐﨑委員】　亡失の冊数が３桁になっていないということですよね。

【高鷲会長】　開架にした蔵書の１％はなくなるのは当然だとよく言いますよね。

【小川図書館長】　データ的に、蔵書の約１％と言われています。

【汐﨑委員】　ブックディテクションは入れているのですね。

【小川図書館長】　一部だけです。

【汐﨑委員】　たとえば、先ほどの話ですが、大田区では高価な美術書は、本当によくなくなっていました。高く売れるぞ、みたいな本です。

【鈴木館長補佐】　結構出入り口のゲートでブザーが鳴ります。

【若林委員】　きょうもお一方、ブザーが鳴っていました。

【鈴木館長補佐】　一般の方も驚くのと、あとブザーが鳴って出ていく方に対して、職員は結構追いかけます。そういう光景を他の利用者の方が見ているので、抑止効果につながっているものと考えています。

【小川図書館長】　雑誌をごらんになっている方が、携帯電話が鳴ったりすると、雑誌を持ったままゲートの外へ出るために鳴ってしまいます。

【高鷲会長】　それで、鳴るのですね。

【小川図書館長】　意図的に、隠して持っていくわけではありません。

【若林委員】　私もやりかねないです。ただ、きょうたまたま御本を借りたら、貸出レシートの下に次の予約者が待っていますという印が加えられていて、これまではなかったですね、レシートには。あれもすごくいいことですね。

【汐﨑委員】　予約があるとそうなるのですね。

【若林委員】　最近おつくりになったようで、あれもお手間がかかるでしょうけど、いいことだと思います。

【鈴木館長補佐】　あとはレシート用紙もかなり予算が削減されているので、オーパックのところに今回メモ用紙を置かせていただきました。レシートを使わなくても、御自分でメモだけできる方は、それを使っていただくということです。

【若林委員】　そうですね、この間から置かれていまして、それも工夫の表れだと思います。

【辻委員】　資料３の中で、指定管理者制度関連の費用のことを御説明いただけますか。

【鈴木館長補佐】　この件に関して、平成26年度に17万6,000円を予算計上していまして、これは26年の３月に、図書館条例の全部改正をして、それが承認されると４月以降に指定管理受

託者の選定委員会を開くための委員の謝礼金ということで計上していたものです。ただ、昨年３月の市議会で、改正条例案は否決され、この委員会は開かれませんでした。平成26年度は未執行という状態になりました。27年度につきましては、図書館の指定管理については、特に動きはありません。従って、指定管理に係る予算については平成27年度はゼロということになります。

【汐﨑委員】　ただ、市長は変わりませんでしたね。

【鈴木館長補佐】　そうですね、昨年12月に市長選挙があり、無投票で再選されましたので、市長は変わっておりません。

【汐﨑委員】　市長は、どちらかというと今でも指定管理者制度を導入なさりたいという意思をお持ちなのでしょうか。

【小川図書館長】　それは大いに持っていらっしゃいます。

【汐﨑委員】　持っていらっしゃるので、またその話が浮上してくるという可能性はあるのでしょうね。

【小川図書館長】　あきらめたという話は聞いていません。

【高鷲会長】　市長選挙が12月でしたから、それまでは表には出さなかったのですかね。

【小川図書館長】　総理大臣の手法を借りれば、私の実績は支持をされているのだからやりますよと言われるのと同じことができる。可能性としてはあると、私は思っています。

【汐﨑委員】　再選されたということは市民の信任を得たということですかね。

【小川図書館長】　安倍総理流に言えばそういうことです。

【汐﨑委員】　選挙でも対抗する人がいなかったという話も聞いていますが。そのあたりは気がかりです。また、指定管理者制度の導入に取り組むとなると、労力をすごく使う話ですから。

【辻委員】　きょうのお話の内容から言っても、やはりいかがなものかと思いますけれどもね。あと、皆さんもごらんになったかと思いますが、雑誌「母の友」の本年２月号で「揺れる図書館」という特集で、すごく含蓄のあることが書かれていて、佐賀県の武雄市の図書館のことや、現在図書館で何が起きているのかという特集。猪谷千香さんの文章も載っています。ここのところ、市長がどのような出方をしてこられるかが気になっていました。ホームページをリニューアルされたということで、蔵書点検のときの様子とか、あとソファーを縫っているところの写真を載せたりすれば、蔵書点検の間は、一体図書館は何をしているのかというのが市民にはわかりにくいので、こういうことをやっているんですよという様子を載せてもらうと、おもし

ろくなるのではないでしょうか。

【汐崎委員】　蔵書点検は、ひたすらバーコードの読み込みですね。

【小川図書館長】　今回の休館期間が長かったのは、システムの入れかえですね。蔵書点検自体は３日もあれば終わります。さまざまな仕事に取り組んでも、１週間あれば十分です。

【汐崎委員】　蔵書点検自体も、電算化になったので、速くなったというのはありますよね。昔は蔵書点検しながら書架移動をしたりとか、利用について動いている本があったり、本の入れかえであるとか、レイアウト変更とかを確認しながらの蔵書点検でしたよね。今はバーコードを読み込ませて、１人当り一日１万冊が目標というような感じなので。横浜市くらいの規模になると、すごく大変ですよね。

【小川図書館長】　現在は、書架を全て清掃しています。

【汐崎委員】　横浜市は大変だと言っています。とにかく、バーコードを読み込ませて、さらに、閉館している間に相互貸借の本が山のようにくるので、それの処理でてんてこ舞いになるそうです。蔵書点検のときにレイアウトを変更しようよとか、引き抜きをしましょうとかというのは、とんでもないという。電算化するからどんどん作業に費やす時間が短くなりますよね。もちろん市民にとっては閉館の日数が短いのはメリットとはなりますが、あわただしいですよね。

【鈴木館長補佐】　今回の蔵書点検のときに、落下防止用に書架にシールを貼りました。もちろん、振動でなかなか落ちなくなったというメリットはあります。本を動かしたりするときに、本が引っかかり、すごくやりにくいというデメリットが発生するので、全部ではなく、上の段の落ちそうな大型本であったり、危険を伴うところのみ今回はシールを張りました。

【汐崎委員】　そうやってみないとわからないところもたくさんありますね。でも、確かに蔵書点検と称して、なぜこんなに休んで何をやっているんだと怒られることもありますからね。

【高鷲会長】　休館中の作業の情報提供も必要かもわかりませんね。それはまたお考えください。

【汐崎委員】　そうです。小学生を連れてきて、蔵書点検をやらせてみるのもおもしろいでしょうかね。

【高鷲会長】　手間暇がかかりますよ。大変ですよ。

【汐崎委員】　職業体験は、逆に大変ですね。

【小川図書館長】　職員だけで蔵書点検を実施しても、スキャン漏れが起きます。

【汐﨑委員】　スキャン漏れがありますか。

【小川図書館長】　そうです。それが怖いですね。

【高鷲会長】　全部やり直しですものね、下手をすると。

【汐﨑委員】　子どもたちは図書館の裏側が好きですからね。

【高鷲会長】　何かの調査で、ボランティアの方で、やってみたい仕事として、図書館の簡単な仕事が人気があるそうです。

【汐﨑委員】　カウンター内では、プライバシーにかかわりますね。

【高鷲会長】　非常に危険ではありますね。

【汐﨑委員】　ですから、配架や書架整理ならできますね。

【小川図書館長】　借りる側、返す側から言うと、カウンターに知った人が立っていると、本を借りられなくなります。

【汐﨑委員】　そうですよね。プライバシーが関係してきますものね。

【小川図書館長】　ですから、知っていても知らんふりをしているはずですよ。基本的には。

【高鷲会長】　よろしいですか。きょうはこれで終わりとさせていただきます。どうもありがとうございました。